

第2章 上ノ国町のすがた

第1節 上ノ国町の概要

(1) 上ノ国町の概要

①位置と面積

本町は、北海道南部檜山支庁管内の南端に位置し、東西約31.5km、南北約27.5km、総面積547.58km²の広大な面積を有しており、江差町、厚沢部町、木古内町、知内町、福島町、松前町の6町と接し、西は日本海に面しています。

②地勢

東と南は大千軒岳をはじめとする松前半島の脊梁をなす山々が連なり、尖岳（とんがりだけ）に源を発する天の川が北西に流れ、南部には石崎川が流れています。町の中央を流れる天の川は12の支流を合し、流域に平野部が形成されています。

③気候

気候は、沿岸を流れる対馬暖流の影響を受け、北海道では温暖な地域であり、平均気温は9.8度程度となっています。また、降雪量は比較的少なく、一年を通じて風が強いため風力発電が行われています。

④道路・交通

道路については、国道228号のほか、道道、町道により道路網が形成されています。また、将来的には函館市と江差町を結ぶ高規格幹線道路である函館・江差自動車道の湯ノ岱IC、上ノ国ICの整備が計画されています。また、公共交通をみると、JR江差線、民間の路線バスが運行されています。

(2) 上ノ国町の歴史・沿革

①歴史

本町は、北海道で最も早い時期に和人が定住した地域のひとつです。中世には渡島半島各地に館（たて）と呼ばれる山城が多数築かれ、それらを中心として活発な交易活動や支配地の拡大が図られていました。

長禄元年（1457年）にアイヌの大首長コシャマインにより、これらの館は次々に攻め落とされましたが、上ノ国の花沢館主・蛸崎季繁の客将であった武田信広が和人地の危機を救ったといわれています。その後、信広は蠣崎家を継ぎ、上ノ国に洲崎館や勝山館を築き、上ノ国は政治、経済、軍事の中心拠点として繁栄しました。

当時松前から西側の日本海側は「上之国」、松前から東側の津軽海峡、太平洋側は「下之国」と呼ばれ、上ノ国地域周辺は上之国と呼ばれており、これが町名の由来となったと伝えられています。

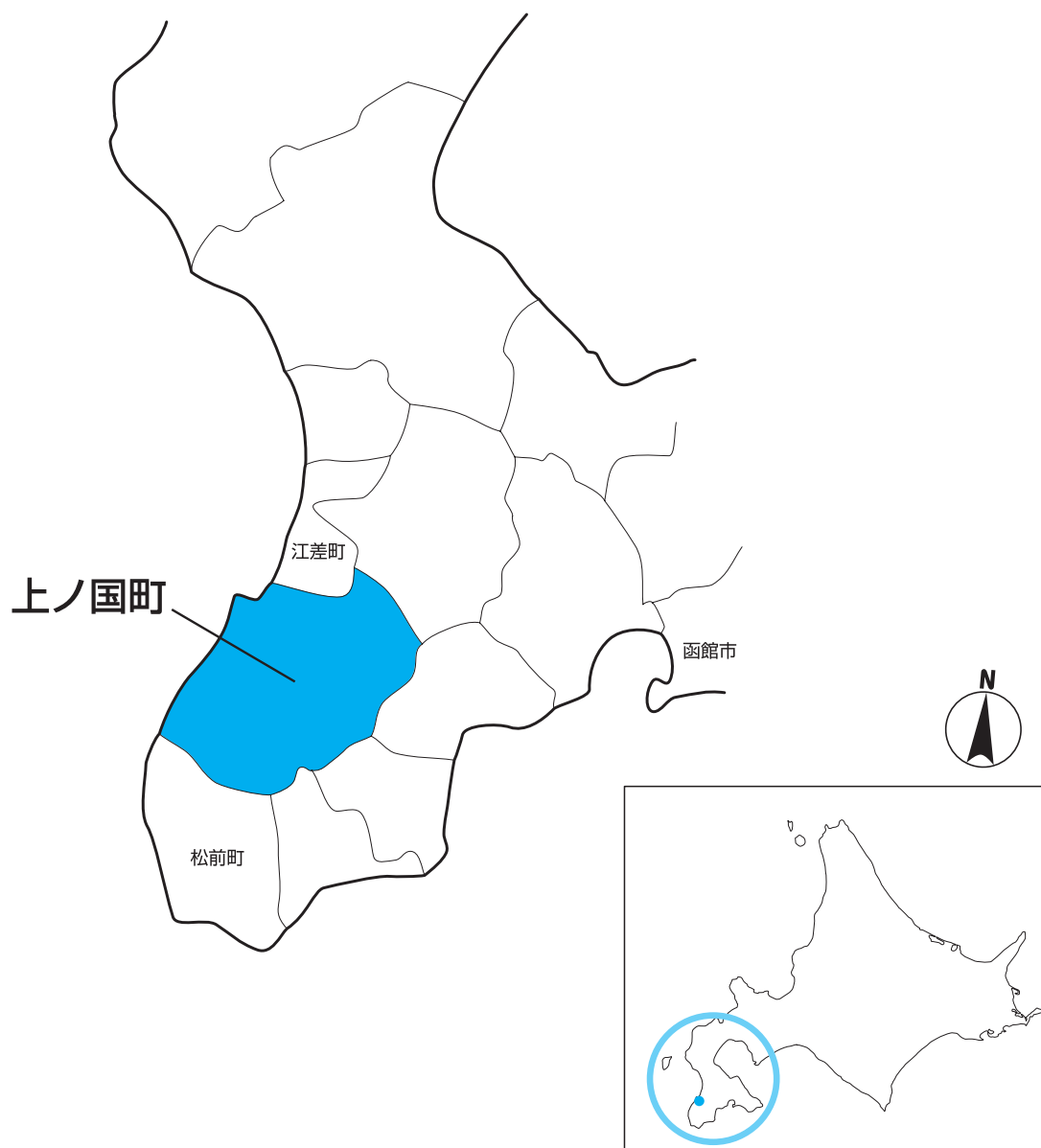
永正11年（1514年）二代光広は本拠を松前に移しましたが、勝山館には16世紀末ま

で城代が置かれ、日本海側の中心として賑わいを見せました。延宝6年（1678年）江差に檜山奉行所が設置されるとその役割は江差へと移っていきました。

このような歴史的沿革から北海道では貴重な中世の史跡や文化財を多数有する歴史のまちとなっています。

②沿革

本町の沿革は、明治3年に上ノ国外六村戸長役場が設置され、明治35年に上ノ国村、木ノ子村、汐吹村、石崎村、小砂子村、大留村、北村の7村を併せて上ノ国村となり、二級町村制が布かれ、昭和42年に町制を施行して上ノ国町となり、現在に至ります。



第2節 人口と世帯の動向

(1) 総人口

平成17年の国勢調査結果によると、本町の総人口は6,417人となっています。

近年の人口推移をみると、一貫して減少傾向にあり、平成2年では7,747人、平成7年では7,292人、平成12年では7,152人となっています。上ノ国ダム建設に関連した人口動態があるため平成12年から平成17年の減少が大きくみられます。

(2) 年齢階層別人口

年齢階層別人口でみると、平成17年の年少人口（14歳以下）は865人（13.5%）、生産年齢人口（15～64歳）は3,664人（57.1%）となっており、平成2年から人数が一貫して減少傾向にあります。一方、平成17年の高齢者人口（65歳以上）は1,888人（29.4%）と平成2年より人数、構成比率ともに増加しています。また、平成17年の全国及び北海道との比較でみると、年少人口比率（13.5%）は全国平均（13.7%）や道平均（12.8%）と同水準となっていますが、高齢化率（29.4%）は全国平均（20.1%）や道平均（21.4%）を大きく上回り、高齢化の進行がうかがえます。

(3) 世帯数

世帯数は、平成17年では2,446世帯で、平成2年の2,542世帯から96世帯の減少となっています。また、一世帯当人数をみると、平成17年では2.62人と平成2年の3.05人から0.43人減少し、核家族化など世帯構成の多様化が進んでいることがうかがえます。

人口と世帯の動向

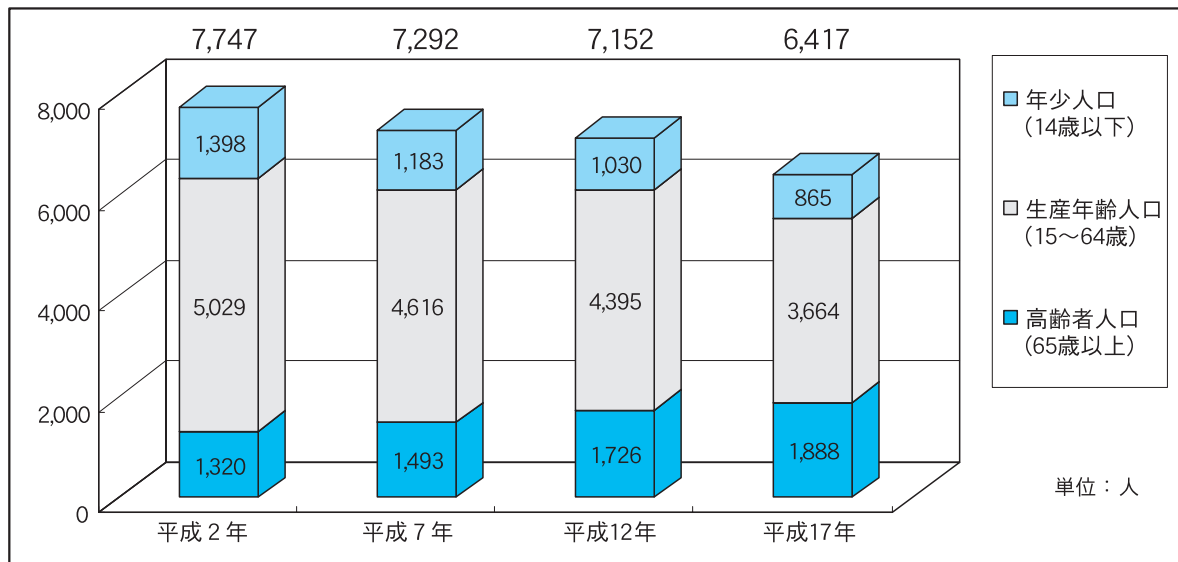
（単位：人、世帯、人／世帯、％）

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	年平均増減率		
					H2－H7	H7－H12	H12－H17
総人口	7,747	7,292	7,152	6,417	－1.17	－0.38	－2.06
年少人口 （14歳以下）	1,398 （18.0％）	1,183 （16.2％）	1,030 （14.4％）	865 （13.5％）	－3.08 －0.10	－2.59 －0.11	－3.20 －0.06
生産年齢人口 （15～64歳）	5,029 （64.9％）	4,616 （63.3％）	4,395 （61.5％）	3,664 （57.1％）	－1.64 －0.02	－0.96 －0.03	－3.33 －0.07
高齢者人口 （65歳以上）	1,320 （17.0％）	1,493 （20.5％）	1,726 （24.1％）	1,888 （29.4％）	2.62 0.21	3.12 0.18	1.88 0.22
世帯数	2,542	2,554	2,706	2,446	0.09	1.19	－1.92
一世帯当人数	3.05	2.86	2.64	2.62	－	－	－

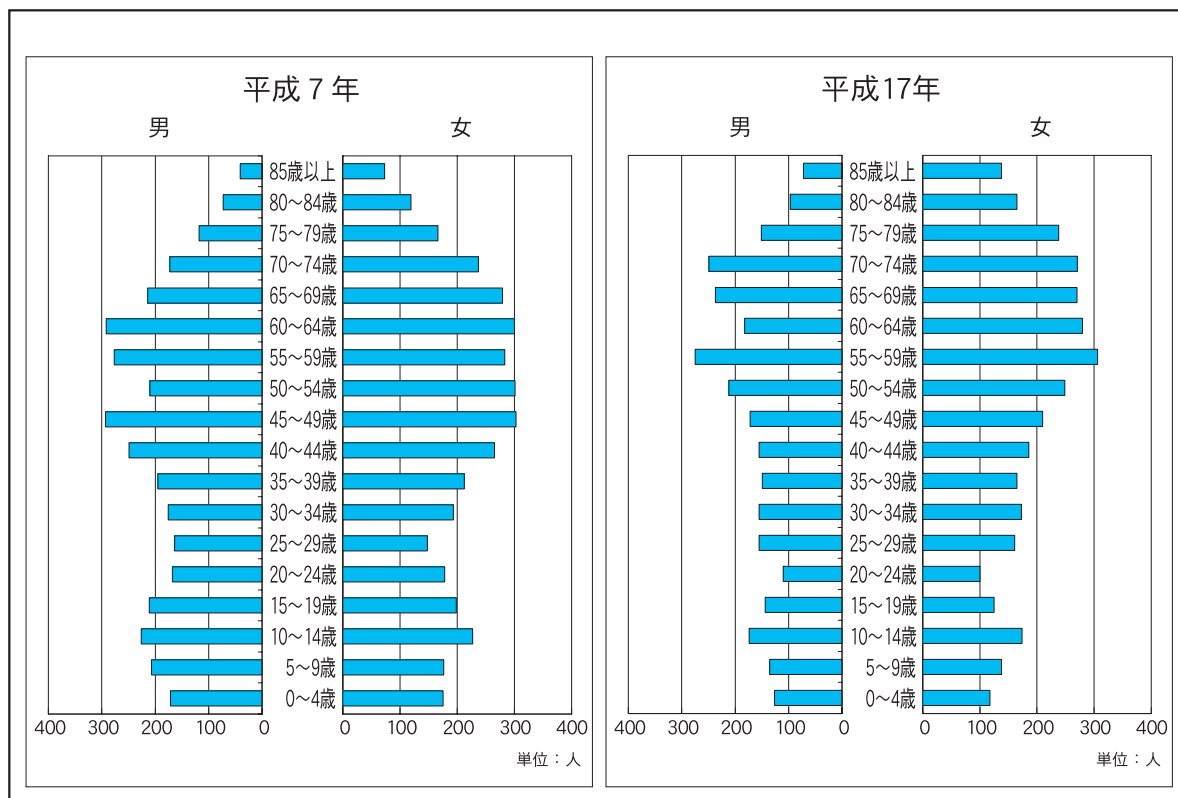
注）総人口には、平成12年に1人の年齢不詳を含む。

資料：国勢調査

総人口と年齢階層別人口の動向



人口構成の比較（平成7年と平成17年）



第3節 住民の意識

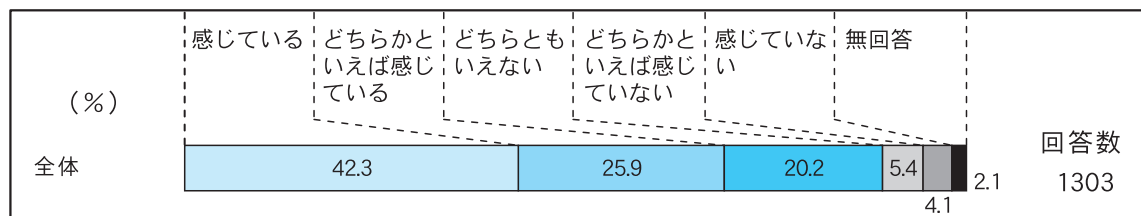
本計画の策定にあたり、平成20年8月に、町内に居住する20歳以上の男女2,651人（無作為抽出）を対象に郵送法でアンケート調査を実施し、有効回収数は1,303、有効回収率は49.2%となっています。その結果の主要な設問結果をみると以下のとおりとなっています。

※以下のグラフでは、比率を百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため合計が100%を上下する場合があります。また、【複数回答】とある問は回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。

①まちへの愛着度

愛着を「感じている」と回答した人が42.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば感じている」が25.9%で続き、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が68.2%となっています。これに対して、“愛着を感じていない”（「どちらかといえば感じていない」5.4%及び「感じていない」4.1%の合計）は9.5%と約1割にとどまり、総じてまちへの愛着度は高いといえます。

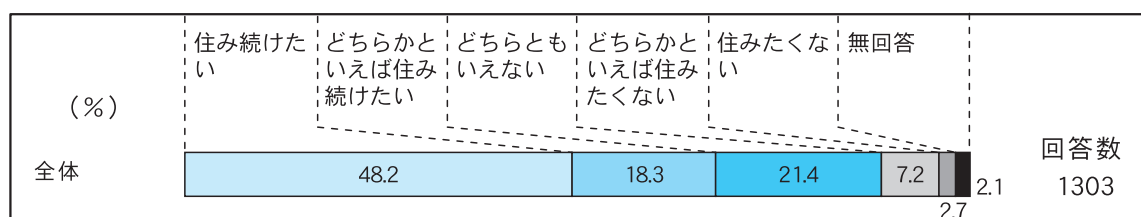
まちへの愛着度



②今後の定住意向

今後も上ノ国町に住み続けたいかどうかをたずねたところ、「住み続けたい」と回答した人が48.2%で最も多く、これに「どちらかといえば住み続けたい」（18.3%）をあわせた66.5%の人が“住み続けたい”という意向を示しています。一方、「どちらかといえば住みたくない」（7.2%）及び「住みたくない」（2.7%）と答えた“住みたくない”という人の合計は9.9%と約1割にとどまり、愛着度とほぼ同様の傾向を示す結果となっています。

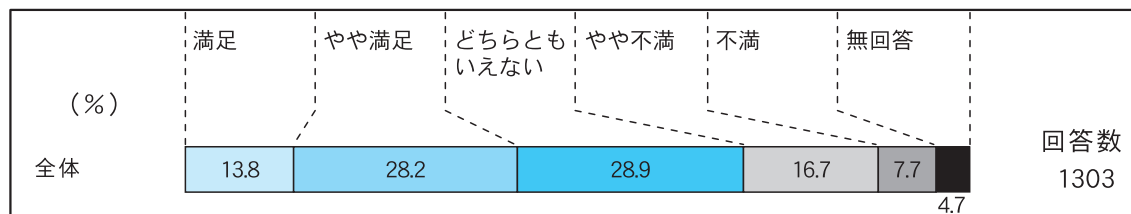
今後の定住意向



③まちの暮らしやすさ（全体の満足度）

“満足”（「満足」13.8%及び「やや満足」28.2%の合計）が42.0%、「どちらともいえない」が28.9%、一方、“不満”（「やや不満」16.7%及び「不満」7.7%の合計）は24.4%となっており、全体的に満足している住民が多数を占めているといえます。

まちの暮らしやすさ



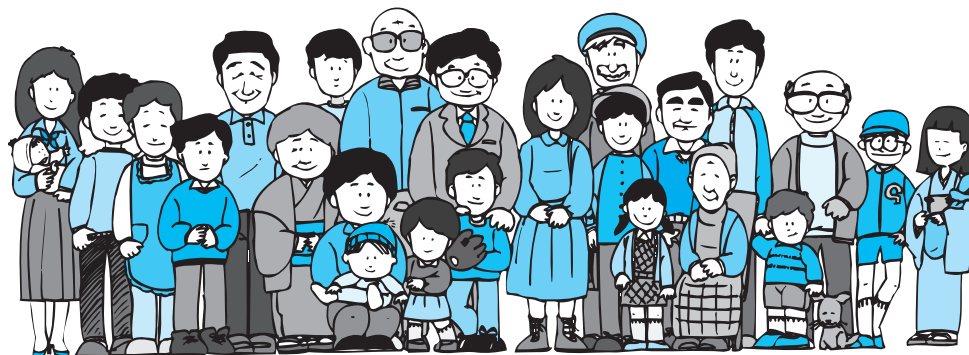
④項目別の満足度について

評価点の最も高い項目は「自然環境の豊かさ」（3.54点）となっており、次いで第2位が「水道の整備状況」（3.33点）、第3位が「消防・防災体制」（2.79点）と続き、以下、「広報・広聴活動」（2.59点）、「道路整備状況」（2.41点）などの順となっています。

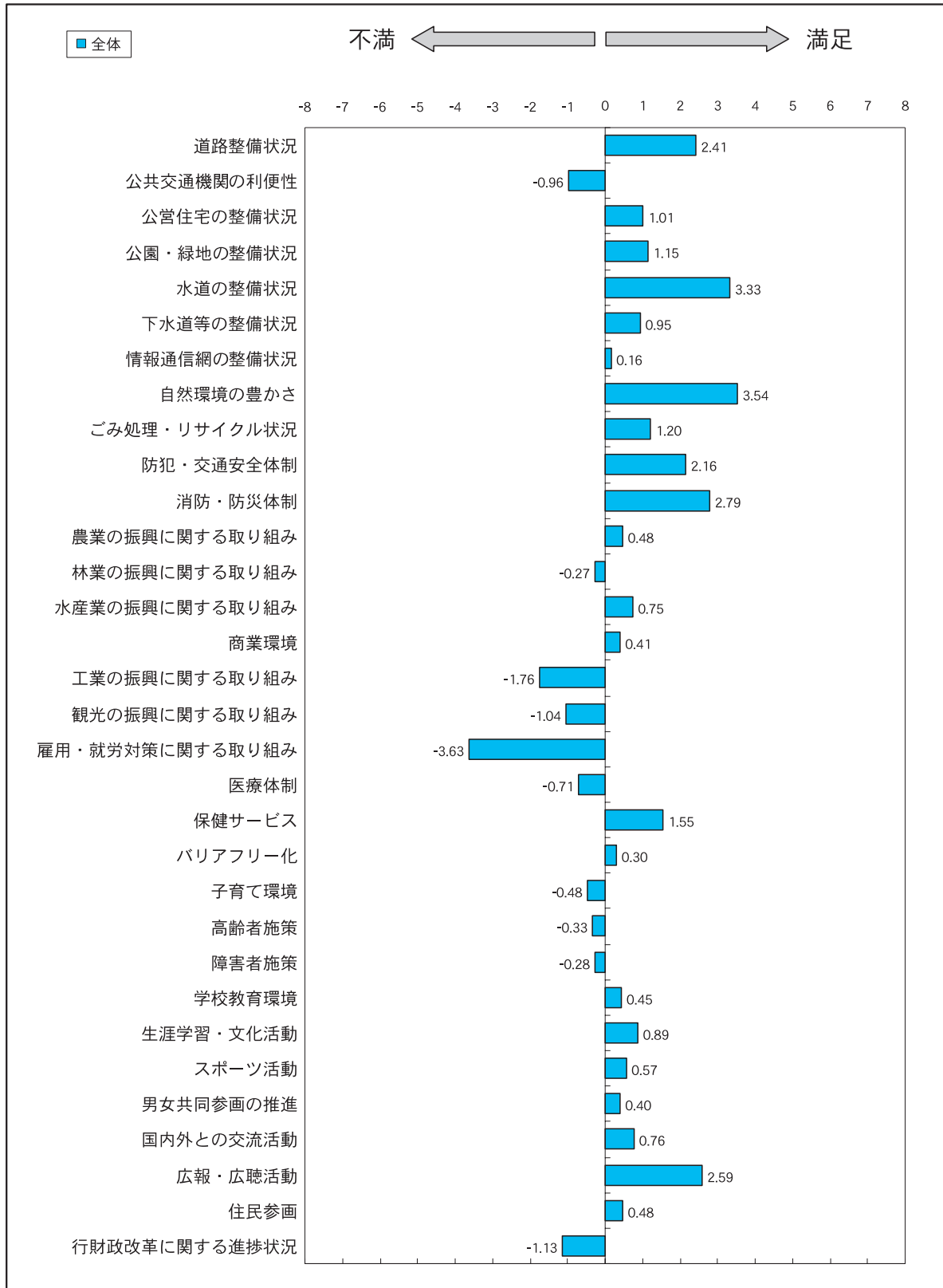
一方、評価点の低い方からみると、「雇用・就労対策に関する取り組み」（-3.63点）が最も低く、次いで第2位が「工業の振興に関する取り組み」（-1.76点）、第3位が「行財政改革に関する進捗状況」（-1.13点）と続き、以下、「観光の振興に関する取り組み」（-1.04点）、「公共交通機関の利便性」（-0.96点）などとなっています。

この項目別の結果と、「まちの暮らしやすさについて」の相関関係から、優先的に取り組むべきと推定される優先度が高いと思われる項目は14項目、優先度が低いと思われる項目は18項目となっています。

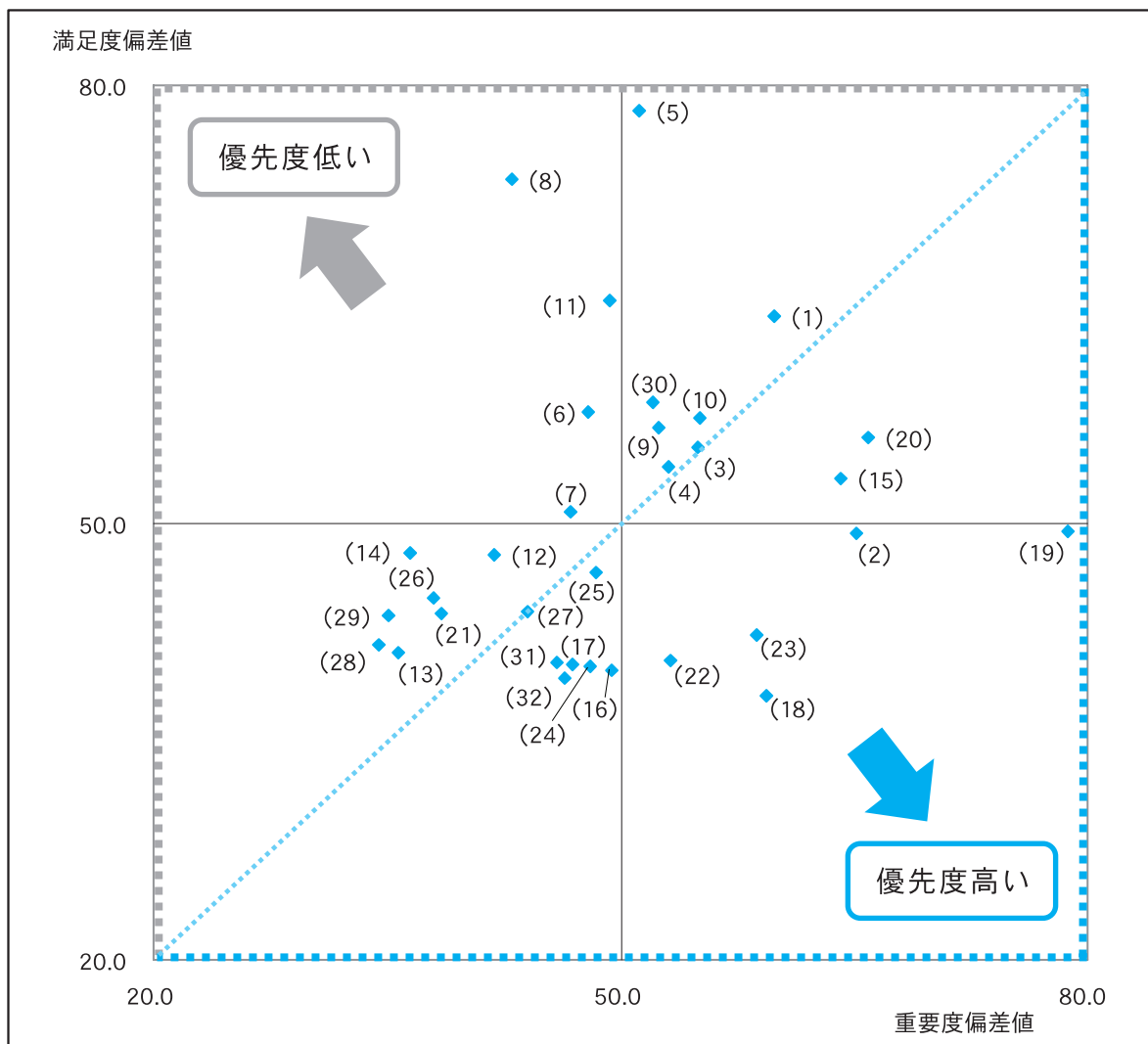
特に取り組むべき項目と考えられる項目は、「医療体制」、「雇用・就労対策に関する取り組み」、「高齢者施策」、「公共交通機関の利便性」、「子育て環境」、「商業環境」などが挙げられます。



項目別の満足度



優先度

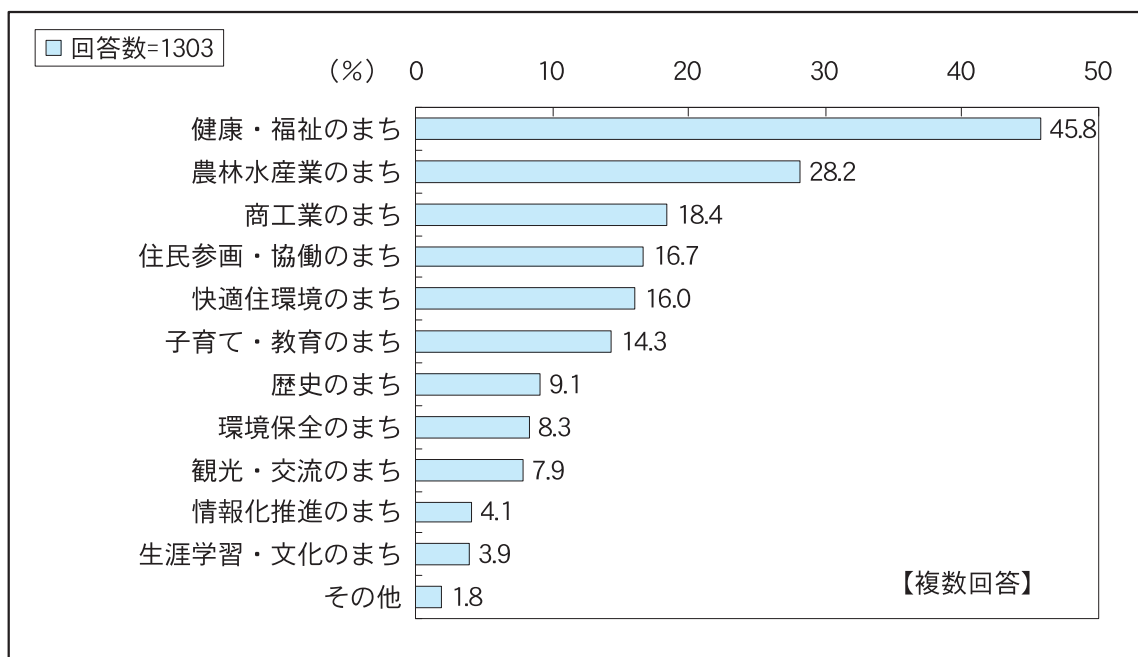


優先度が高いと思われる項目	優先度が低いと思われる項目
(2) 公共交通機関の利便性 (15) 商業環境 (16) 工業の振興に関する取り組み (17) 観光の振興に関する取り組み (18) 雇用・就労対策に関する取り組み (19) 医療体制 (20) 保健サービス (22) 子育て環境 (23) 高齢者施策 (24) 障害者施策 (25) 学校教育環境 (27) スポーツ活動 (31) 住民参画 (32) 行財政改革に関する進捗状況	(1) 道路整備状況 (3) 公営住宅の整備状況 (4) 公園・緑地の整備状況 (5) 水道の整備状況 (6) 下水道等の整備状況 (7) 情報通信網の整備状況 (8) 自然環境の豊かさ (9) ごみ処理・リサイクル状況 (10) 防犯・交通安全体制 (11) 消防・防災体制 (12) 農業の振興に関する取り組み (13) 林業の振興に関する取り組み (14) 水産業の振興に関する取り組み (21) バリアフリー化 (26) 生涯学習・文化活動 (28) 男女共同参画の推進 (29) 国内外との交流活動 (30) 広報・広聴活動

⑤今後のまちづくりの特色について

今後のまちづくりの特色をたずねたところ、「健康・福祉のまち」(45.8%)が他を大きく引き離して第1位となっています。次いで「農林水産業のまち」(28.2%)が3割弱で続き、以下、「商工業のまち」(18.4%)、「住民参画・協働のまち」(16.7%)、「快適住環境のまち」(16.0%)、「子育て・教育のまち」(14.3%)が1割台で続いており、「保健・医療・福祉」を中心に“産業振興”、“住民参画”、“住環境”、“子育て・教育”に関心が集まっていることがうかがえます。

今後のまちづくりの特色について



		第 1 位	第 2 位	第 3 位
全 体		健康・福祉のまち 45.8	農林水産業のまち 28.2	商工業のまち 18.4
年 齢	20 代	健康・福祉のまち 34.1	子育て・教育のまち 30.7	農林水産業のまち 27.3
	30 代	子育て・教育のまち 34.3	健康・福祉のまち 32.6	商工業のまち 21.5
	40 代	健康・福祉のまち 37.2	商工業のまち 30.5	農林水産業のまち 26.8
	50 代	健康・福祉のまち 40.6	農林水産業のまち 27.9	商工業のまち 23.9
	60 代	健康・福祉のまち 52.9	農林水産業のまち 30.4	商工業のまち 17.4
	70歳以上	健康・福祉のまち 60.6	農林水産業のまち 33.1	快適住環境のまち 14.1